

エビデンスと共に考える「いのち」と「暮らし」を豊かにする講座

第6回

数学という言葉で 現象を語る

数理モデルの基本思考

池田 陽一氏

大阪大学 感染症総合教育研究拠点 教授



会場参加（※事前申込要） / オンライン参加（申込不要）

2023年9月29日（金）19:30～20:30

・グランフロント大阪 北館 2F SpringX
・オンライン：YouTube Live

エビデンスと共に考える「いのち」と「暮らし」を豊かにする講座

2021～2022年度の2年間、大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER)は、『感染症から「いのち」と「暮らし」を守る講座』を通じて、パンデミックという緊急事態に対応する方法をお届けしてきました。今年度からは、パンデミック後の社会や将来のパンデミックをみすえて講座をリニューアルして、科学的根拠(エビデンス)と上手に付き合いながら、私たちの「いのち」と「暮らし」を豊かにする術(すべ)を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。大阪大学のさまざまな分野の研究者が、中学生から大人までを対象に、わかりやすく解説する全12回のプログラムです。

講座概要

数理モデルは、物理や化学などの自然科学分野だけでなく、経済をはじめとする社会科学においても広く利用されます。また、ある現象に対して、数学という言葉を使って本質部分を抜き出し現象そのものを理解しようとします。数学を用いることで、曖昧さを排除し現象の輪郭をはっきりと捉えることができるようになるばかりでなく、一見すると全く異なる現象が実は本質的に同じであると気付かされることすらあります。

本講義では数理モデルの基本的な考え方を紹介し、簡単な例を通して現象の捉え方を説明します。

講師



池田 陽一氏 大阪大学 感染症総合教育研究拠点 教授

2022年度より大阪大学 感染症総合教育研究拠点(CiDER) 教授を務める。専門は原子核理論で素粒子クォークの複合体の量子少数多体物性に興味あり研究を行なっている。また、ヒトからヒトへの感染に適用できる感染症数理モデル「リンク切れモデル」を提案し、感染症流行メカニズムの研究も行なう。最近では、社会における不確実性にも興味がある。

▶ 9月29日開催講座の詳細・
会場参加申込・オンライン視聴はこちら<https://kc-i.jp/activity/chogakko/cider2023/detail20230929.php>

▶ 過去の講座はアーカイブで視聴できます。

<https://www.cider.osaka-u.ac.jp/project/project01.html>主催 池田 陽一氏 CiDER(大阪大学感染症総合教育研究拠点)、一般社団法人ナレッジキャピタル
助成 日本財団

問い合わせ

大阪大学感染症総合教育研究拠点 事務局(総務担当)

☎ 06-6879-4903

✉ kansensyo-soumu@office.osaka-u.ac.jp

🌐 <https://www.cider.osaka-u.ac.jp/index.html>